

集中講義「サステナビリティ学入門」開講!!

第1日 6月9日(土)

第2日 6月23日(土)

第3日 7月7日(土)

昨年度大好評だった集中講義「サステナビリティ学入門」が今年も開講されます! 教員・学生とも全学部より参加する、新しい講義スタイルです。

-----登壇予定教員-----

三村信男(ICAS 機関長・広域水圏環境科学教育研究センター-教授)

横木裕宗(広域水圏環境科学教育研究センター-准教授)

小峯秀雄(工学部准教授)

上地 勝(教育学部准教授)

伊藤哲司(人文学部教授)

大辻 永(教育学部准教授)

木村 競(教育学部教授)

堀 良通(理学部教授)

蓮井誠一郎(人文学部准教授)

中川光弘(農学部教授)

太田寛行(農学部教授) -登壇予定順-



昨年の授業風景

各日最後にパネルディスカッションを行う予定です。みなさんの熱い議論が期待されます!!

ICAS 活動報告

5月11日(金) ICAS サステナ・フォーラム開催
ICAS メンバーの活動を報告する場として ICAS サステナフォーラムが開催されました。今回は 2 回目で、多数の学生さんの参加により大いに盛り上がりました。前半は三村信男 ICAS 機関長が IPCC の会議の様子や裏話など、後半は安原教授、中川教授、横木准教授、北准教授がそれぞれの研究活動を報告されました。

第3回サステナフォーラムは7月上旬開催予定!!

5月14日(月)~ ICAS ゼミスタート

毎週月曜日 15:00~: ICAS 本部にて開講中です!!

「適応科学の概念形成」を目標に始まった ICAS 勉強会。初回は学内外から 15 名が集まりました。前半は今後の進め方を話し合い、後半では農学部の成澤才彦准教授により「エンドファイト」についての興味深い発表をしていただきました。今後は ICAS 教員・研究員による個々の研究発表とともに、「環境経済学」をキーワードに議論していく予定です。学生さんの参加も大歓迎ですので、興味のある人はどうぞご参加ください!!

詳しくは ICAS 本部にお問い合わせください。

ICAS on Media



ここでは ICAS のメディアでの活動を紹介します

- 5月3日(木・祝)午後9時~ NHK「ニュースウォッチ9」地球温暖化特集のコーナーにて
- 5月22日(火)午後7時~ NHK ニュース「海面上昇で大浸水被害も」にて
- 6月4日(月) 日本経済新聞 科学面掲載

ICAS/IR3S Calendar

4月	新年度スタート		大学院講義スタート
5月	5/11(fri) 第2回 ICAS サステナフォーラム	10月	中旬 第4回 ICAS サステナフォーラム
	5/14(mon) ICAS ゼミスタート		IR3S 10/18 北九州シンポ(専門家会合) ~20 「アジアの循環型社会の形成を目指して」 ISCIU-3 10/6.7 国際学生会議 in Mito
5月	IR3S 5/30 中国浙江大学シンポ ~6/2 「循環経済と持続可能な社会」	11月	
6月	6/9(sat)「サステナビリティ学入門」第1日	12月	教育国際シンポジウム in Mito
	6/23(sat)「サステナビリティ学入門」第2日		
7月	IR3S 初旬 インド office 開設(ws 開催)	1月	IR3S 温暖化 FP シンポジウム
	7/7(sat)「サステナビリティ学入門」第3日		
8月	IR3S 中旬 IR3S ワークショップ in Japan	2月	IR3S 2/2 公開シンポジウム
	初旬 第3回 ICAS サステナフォーラム		IR3S 温暖化国際シンポジウム in Hawaii
9月	IR3S 9/18 エネルギー持続性フォーラム ~19 with IARU	3月	地域サステナシンポジウム in Mito
	9/20(thu) ベトナム・日本国際シンポジウム ~22(sat) in Vietnam 地域サステナワークショップスタート		

*網掛けは継続される企画です
*予定は変更になる場合があります
*予定は毎号掲載されます

ICAS の予定に関するお問い合わせは ICAS 本部まで
icas@mx.ibaraki.ac.jp



第1回の「排出資源」のお話はいかがでしたか？
第2回からは数回にわたり、ICAS 特任研究員の
田村誠さんがサステナに関する身近な話題をピ
ックアップしてわかりやすく解説します。サステ
ナプチ知識をどんどんためていこう!!

「適応」策とは

気候変動問題、温暖化問題における対応策は、緩和策 (mitigation) と適応策 (adaptation) の二つに大別できます。緩和策とは温室効果ガスの削減など、気候変動の防止を図る方法です。一方、適応策は堤防の設置や栽培植物の変更など、気候変動が存在するという前提に基づきシステムを調整していく方法です。これまで気候変動問題はある程度将来的な問題として捉えられていたため、予防的な観点から緩和策を中心に議論されてきました。しかし、最近の異常気象からも想起されるように、実際には既に気候変動が起きつつあり、効果が現れるのに時間を要する緩和策だけでは不十分だとして早急な対応としての適応策が求められるようになってきています。とりわけ、発展途上国は先進国よりも気候変動に対して脆弱であるため、適応策が必要だと言われています。

ダイエットにたとえて考えてみましょう。毎日の食事制限やライフスタイルを見直して、なるべく体重を増やさないように節制するのが緩和策です。これに対してダイエットよりもむしろ、服のサイズを変えたり、体型の変化に応じてファッションを変えたりするのが適応策に相当します。食事制限の効果が出るまでには時間がかかるばかりなく過度な食事制限は貧しい気持ちになったり、体に負担がかかったりするかもしれません。また、体重の増加に開き直りすぎてしまうと、更なる悲劇が待ちかまえているかもしれません。

これは気候変動問題にも当てはまります。省資源や代替資源の開発にも、堤防の建設や農作物の品種改良にも、時間や費用、そして技術的な問題など様々な限界が存在します。つまり、どちらの対策も一長一短があります。一つの対策に頼りすぎず、双方のバランスを取ることが大切ではないでしょうか。両者の組み合わせを勘案して気候変動問題への適切な対応策を考えていくことが ICAS の主要な研究テーマです。



Environmental News



今年4月、3R*を推進する法律である「容器包装リサイクル法」が改正されました。これによってスーパーのレジ袋の有料化などがどんどん進んでいくと思われます。環境省の政府広報も「マイバッグでエコかっこいい人になろう」という広告を出して、若い人の関心も呼びかけているようです。

*用語の説明はサステナ用語集をご参照ください

ICAS のメンバー紹介

ひとこと自己紹介



私は、ICAS の特任研究員として農学部阿見キャンパスで研究業務を行っています。研究内容は、畑地土壌から発生する温室効果ガスを抑制する農業技術の開発に向けて、その発生源である微生物の特性を研究しています。これまで微生物の中でも、細菌を対象にしてきましたが、ICAS 研究では、糸状菌、いわゆるカビも扱うようになり、同じ微生物でも研究方法や考え方がこれまで違うのかと大変刺激を受けています。

昨年度は ICAS の活動を通して、一目標のもと、学問分野の垣根を越えて協力していくことの重要性を感じました。また、他学部の先生方のお話を聞ける機会が多かったことが、私個人においてとても意義でした。今年度は、成果という形で ICAS に貢献できるような研究に邁進していきたいと思っています。

ICAS 特任研究員
佐藤 嘉則
さとう よしのり
星座: 山羊座
血液型: BO 型
趣味: 散らかっている場所を片付けること

サステナ用語集

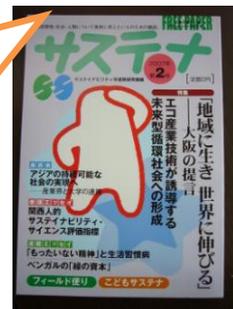
○3R

廃棄物の発生抑制 (Reduce) ・再使用 (Reuse) ・再生利用 (Recycle) のこと。資源の有効利用を通じて環境と経済の両立をはかる取り組み。

○バイオ燃料

バイオマス (生物資源) のもつエネルギーを利用した燃料のことで、材料は主にとらもちしなどの穀物を利用する。石油燃料の代替エネルギーとして注目されている。

サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S) より発行されている学術誌「サステナ」、各キャンパスにて配布中。第4号は茨城大学 (ICAS) が編集を担当します! 乞うご期待!
詳しくは ICAS 本部まで



Editor's note

サステナフォーラムや ICAS ゼミなど、いろいろと活動が活発になってきました。今、季刊誌サステナのキャラクターを募集中ですが、ついでに ICAS のキャラクターも考えてもらえればなあ... とひそかに思っています。

By R.H